







もらえたらと思います。 など、みんなが参加しやす わせた訓練を行ったりと、 る人は「自分が地域で役員をときに役立ちません。参加す

会を行うことができるように 芝を敷き、28年度にはプレ大 整備を行っている途中です。 ますが、ホッケーの会場は今、 グと射撃は会場が決まってい われます。そのうち、ボクシン クシング、射撃、ホッケーが行 27年度中には完成させて人工

> を踏み出す1年にしなければ く、飛躍していくための一歩

出発点にして、未来に羽ばたわりではありません。ここを

した松前町ですが、ここで終

60年という還暦を迎え成熟

の年」にしたいと思います。

「成熟から、さらなる飛躍へ

で防災・減災の意識を持って ような方法を考えて、みんな 当者を招いて防災教室を行う 訓練だけでなく、危機管理担 工夫が必要です。また、防災 地区で立地条件など地域に合 年寄りも訓練に誘ったり、各 なくて、体の不自由な人やお しているから」というのでは

なしの気持ち」で、みんなで協のスローガンである「おもて構築していって、えひめ国体

は良くなり、飛躍できるはず ことができれば、もっとまち くんだ」という気持ちを持つ えて、「私たちが引っ張ってい 員や住民の皆さんが一緒に考 年を契機として、町の若い職

思っています。 力して国体に参加できたらと

皆さんの役割分担を少しずつができるか」といった住民のいます。そして、「地域では何

ことを感じてもらえたらと思

取り組みです。松前町ではボ らないのは「えひめ国体」への に力をいれていかなければな また、今年だけでなく、徐々

の皆さんにも「えひめ国体が 盛り上げていくことで、住民 見える形をつくってムー ように住民の皆さんに、目に したいと思っています。この に甘えるのではなく、この60と思います。そういう利便性 お年寄りも住みやすいまちだ 移動もしやすくて、若い人も 減していない。水不足もなく は、災害も少ないし、人口も激は何も変わりません。松前町 同じように行動していたので ならないと思っています。 また、その未来も今までと

とにつながるんです。 他のまちとの交流が増えるこ 気持ちになったりするなど、町に行ってみようかなという の販売につながったり、松前えました。これらは、特産品 らえたし、関心を持ってもら 人に松前町のことを覚えてもしての認知も広がり、町外の 町」ではなく、「まさき町」と 行っていくことで、「まつまえ でロゴマークを使ったPRを ア」を開催してきました。そこ

ら、名刺に印字するほか、大に町のロゴマークを作ってか

います。これまで、平成25年 とに成功した1年だったと思 県外へ松前町を売り出すこ Rや宣伝が上手くいき、町外、

阪や名古屋で「うまいものフェ

白石町長

町民の皆さん、新

年あけましておめでとうござ

います。昨年は、松前町のP

振り返っての感想をお願いし ございます。まずは、昨年を

-新年あけましておめでとう

今年4期目の最後の年となる白石町政。 今年どのような事業に力を入れるのか、 インタビューしました。

町長インタビュー

平成 27年の町政を問う

多少残っていますが、腰の痛をしました。術後、足の重さは はいい年になると思います。 ます。軽い体になったし、今年 み自体は完全によくなってい と思います。 プライベー

負を教えてください。 の年になると思いますが、 年になると思いますが、抱今年、町長は4期目の最後

間でいえば還暦という大きな今年は合併して60年で、人 ます。これは単に新し

円熟したまちとなりますの節目を迎えます。60年という まな形で行いたいと思ってい に、誰もが気軽に参加できる 分自身で感じてもらえるよう 皆さんに60年という節目を自 ません。そこで、多くの住民の を目指していかなければなり が文字通り一つとなって未来 で、地区は関係なく、松前町 ような記念イベントをさまざ

あったり、逆に他のまちの良 いくようになった1年だった ようなことが、 と、広がりが出てきます。この さを知るきっかけとなったり ると、松前町の隠れた良さで トでは腰の手術 やっと上手く 多くの住民の皆さんが参加す 祭り、文化祭やたわわ祭など、 りません。毎年行っている夏 るイベントを、60年にふさわ ントをするということではあ

思っています。 「自分たちで『まち』をつくる もらえるきっかけになればと 持ちになってほしい。そして、 ことに参加したい」という気 で、住民の皆さんには「まちの 実際に参加してもらうこと できるイベントを企画して、 考えています。 んだ」という気持ちを持って しい内容で行っていけたらと このように多くの人が参加

などを教えてください 他にも今年力を入れる施策

ことが大事だし、 ません。形を変えて実施する 進めています。それだけでな に行わなければ、 ればいいというものではあり 大切です。 防災訓練は1度す 地域の防災力をつけることも 担当の副町長を置いて対策を く、住民の皆さんも協力して、 いる防災は、町としては防災 重点施策として位置付けて より実践的



未来への一歩を踏み出し、 さらなる飛躍への1年に。

したいか教えてください。一つまで、今年どんな1年に一今までの話を含めて最後

防災関係

る予定です。今後、この計画に

えひめ国体

7年ぶりに「地域防災計画」を見直し。 全国で発生した震災や風水害での教訓を 基に、より実情に応じた計画の策定を進 めています。

などを定めたものです。

計画では、東日本大震災の教 直しを行っています。新しい 設。実情に応じた計画となる 復興対策についての項目を新 「南海トラフ」の予防・応急・ 訓を踏まえ、「原子力」「津波」 成19年に策定された計画の見 ように検討しています。この 昨年から防災プロジェクト 防災に関する業務や対策 ムなどで協議を重ね、平 今年の春には完成す

や震災などの災害から守るた 皆さんの生命や財産を風水害 定します。この計画は、住民の

今年は「地域防災計画」を改



て進めていきます。 の設置と資機材の配備も併せ 避難所については、備蓄倉庫 お知らせする予定です。指定 所の場所についても皆さんに わせ、指定避難所・福祉避難 ページなどでお知らせします。 の内容は、皆さんにもホー 対策を進めていきます。計画 基づいて、各対策チームごとに 他にも、現在は各班ごとに建 また、この計画の公表に合

を進めることとなっています。 分団の拠点として施設の整備 作の消防詰所を統合させ、第4 てられている徳丸・中川原・出

に向け、 進めていきます。 会総会を開催し、えひめ国体 り、平成28年のプレ大会開催 町。今年は、町長の言葉の通 に向け本格的に始動した当 昨年、発起人会、実行委員 ホッケー場の整備を

感してもらうため、21年度か

もある」と住民の皆さんにも実

ら行っている「ホッケ

教室」

方法、 常任委員会や専門委員会で検 どで構成された実行委員会の 育協会、教育関係の関係者な これらは、町、議会、区長、体 えるように準備を進めます。 動など、円滑な国体運営が行 と、開催に向けて競技の運営 たハード面はもちろんのこ さらに、施設の整備とい 交通、衛生面や広報活 0

国体に向け本格的に始動。ホッケー、ラ ボクシングの競技運営が円 滑にできるよう施設整備をはじめ、さま ざまな視点から準備を進めています。



討していく予定です また「えひめ国体が松前で

滑に実施できるように、 です。これらについても、 障がい)」、「サウンドテーブは「卓球(身体障がい・知的 害者スポーツ大会も行われる ルテニス」が実施される予定 こととなっています。当町で えひめ国体後には、全国障 準備

実施競技の普及に努めます。 啓発グッズも活用しながら、 や「ボクシング教室」を継続。

記念式典と記念講演をはじめ 誰もが気軽に参加できるよう ベントを企画中です。 として、60周年を記念したイ 言葉の通り、4月に行われる 形で行いたい」という町長の 身で感じてもらえるように、 な記念イベントをさまざまな んに60年という節目を自分自 今年は「多くの住民の皆さ

事業プロジェクトチーム」を の中に「義農作兵衛」、「麦」 検討しています。 記念事業実行委員会」の中で 案を「松前町町制施行60周年 結成し、意見を出し合いまし 「松前町町制施行60周年記念 た。現在、そこで協議された 実行委員会では、イベント

場の若手職員を中心とした

企画に関しては、昨年、

役

催なども、検討事項として挙

生まれるようなイベントの開

や「はんぎり」など、他のま

宣言50周年」という節目の年さらに、昨年は「教育の町 入れようと、話し合いが進め め、「未来に向けての育み」が え、松前町誌の編纂をはじ でもありました。これを踏ま られています。 ちにはない松前らしさを取

体的な内容については、決ま うに準備を進めています。具 ません。それが実現できるよ ちが一つにならなければなり 熟した松前町が「未来に向け します。 り次第、広報などでお知らせ には、記念事業を通じて、ま てさらに飛躍していく」ため これらの大きな節目に、

がっています。 円

...

60 周年記念事業 プロジェクト

平成 27 年 3 月 31 日 で町制60周年を迎え る松前町。

一人でも多くの人が、 60年という節目を実 感してもらえるよう に、さまざまなイベン トの企画を進めていま す。

7 2015-1 ❖ 広報 まさき